

ライン工房  
情報誌

第36号

# 街の風

企画・制作  
社会福祉法人 ライン工房

〒861-8041  
熊本市戸島5丁目8番6号  
TEL 096-380-5752  
FAX 096-380-1343

E-mail rine2001@alpha.ocn.ne.jp  
URL http://www17.ocn.ne.jp/~line/

## 私たちは何を提供するのか

社会福祉法人ライン工房 統括施設長 熊川嘉一郎

家がある、家族がいる、仲間にも囲まれている、それほど余裕はないかもしれない日々暮らしていける……。こんな当たり前のように連なる日常というものは、実はたいへんに脆い土台の上に微妙なバランスを保ちながら乗っただけなのだということを、去年は改めて思い知らされた年でした。そして、改めて自分の周りを見渡してみると、風景や街並み、そして家族や職場の皆たちなど、いつもと変わらない日常がそこにあるということに素直に有難いと思っています。恐らく皆さまの心の中でも様々な変化が起こった一年ではなかったかと思いません。

そしてライン工房もまた、新しい年をこうして迎えることができました。工房にとって、そして関係する皆さまにおいて今年は何のような一年となりますでしょうか。

私たちはこれまで「福祉（の提供）」ということの仕事とし、これからもそれは変わりません。今更ながらですが、福祉という言葉の「福」も「祉」もそれぞれ“幸せ”という意味を含んでいます。要はその幸せを如何にして創り出すかということであり、しかし、これはそう簡単なことではないようにも感じています。

幸せを感じる瞬間、ということ言えば、例えば嬉しかったこと、楽しい体験、安らぎを得たときなどを挙げることができるでしょう。こういった機会が次々と訪れることを私たちは望んでいますし、それが確実に生きる喜びにも繋がっていきます。

ただ、その「幸せ」を創り出すために私たちが行うべきことは、ひたすらにそれら「嬉」「楽」「安」といったものを提供していけば良いのかというと、これは少し違うのではないかと考えています。どんなおいしい料理でも毎日そればかり食べていては次第に感動も薄れやがて飽きてしまうように、楽しさだけを追求してもそれだけで人は満足感を得られるものでもないようです。私たちが提供すべきは、「おいしい料理」の連続ではないようにも思うのです。

では何を提供すべきなのか。

恐らく多くの事業所も同様でしょうけれど、例えばライン工房では、利用者ご本人が本来持っている（筈の）力を“支援”と称して奪わない、ということ意識して

います。これは「できることは自分でやってもらう」という意味合いではなく、ご本人が自分でやろうという意識を大切に（あるいは育てる）ということなのです。そのことがご本人の成長や前進力にはプラスに働くと考えが故です。そしてこの「成長」ということと言えば、楽しさや嬉しさが人を成長させるだけでなく、むしろ辛かったこと、しんどかった経験といった決して「喜び」とは言えない事柄が私自身を振り返っても成長に繋がっているように思えます（いったい熊川のどこに成長の証があるんだと突っ込まれると辛いのですが）。

比較的重い障害を持つ方たちの中にはいろいろなことに対して「どうせ自分にはできない」といったあきらめを予め持ってしまう方もおられます。無理かもしれない、でも自分でやってみる、やっぱりうまくいかない、でも悔しい、もう1回やってみた、そしたら少しだけできた、じゃあもっとできるようにやってみよう……。たとえ僅かなことでも「自分にもできた」という喜びは自信を生み出し、その自信が意欲を育み、その意欲が生きる上でのたくましさへと繋がっていくことがあります。あるいは結果的にやはりうまくいかなかったとしても、決して楽ばかりではない中で何かに取り組んでいくこと、挑戦すること、その過程の中で生まれるしんどさや達成感、落胆や満足感といったもの、そういったものの総てを含んで“今、ここに生きている”というかけがえのない実感が得られるのではないかと思います。してもらえばかりではない、自分自身の意志と力で何事かに取り組むこと。「幸せ」というのは案外そんなところにも見つけることができるものかもしれません。そして、それは障害の有る無しを問わないことでもあるでしょう。

こういったことが日々の支援の中できちんとできているのかと問われるとまだまだのレベルですと言わざるを得ませんし、また、日々の諸々に追われる中であってそう簡単なことだとも思っていないませんが、私たち支援側としてはそのことを常に意識した係わりを、利用されるお一人お一人と持てるよう努めていく必要があると思っています。

本年も引き続きライン工房の在りようについて、少しばかりでも皆さまの耳目を傾けていただければ幸いです。本年もどうぞよろしくお願いいたします。